

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスふれあい・五日市		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 3日		～ 2025年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33名 (33世帯)	(回答者数) 29名 (29世帯)
○従業者評価実施期間	2025年 12月 3日		～ 2025年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 30日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの特性や発達段階に応じた個性の高い支援ができて いること。	・子どもたちを一人ひとりをしっかり観察し、スタッフ同士で ちょっとした子どもたちの変化や気づきを共有し、子どもの理 解を深めている。 ・子どもたちの小さな変化や芽生えを見逃さず、自己肯定感 を高めていけるような声掛けを行っている。 ・子どもたちの特性を理解した上で、ありのままを受け入れ、 その子の「気持ち」に着目するとともに、肯定的側面にも目を 向け、子どもたちに寄り添った支援ができるように心がけてい る。	・単なる行動観察にならないよう、今の子どもの姿がどんな 苦しさがあるのか、どんな特性があるのかなど、整理・分析 できるケース会議の充実を図っていく。 ・職員一人ひとりの気づきを職員全体の気づきとして、次の 支援へと繋げていき、共通理解を深めていく。 ・専門的な視点でのアドバイスや、ご家庭での関わり方のヒ ントとなる情報提供をより組織的に行っていく。
2	・子どもたちが「安心して・楽しく」通える環境とスタッフ体 制が整っていること。	・活動内容やその日の子どものメンバーを考慮し、安定した支 援、個別対応がしっかりできるような人員体制を取っている。 (基準人員+2名以上の配置を毎日している) ・視覚支援(写真、絵、文字など)や手順書、構造化により、 子どもが見通しをもって過ごせるように工夫している。 ・同じ活動の中でも、その子の「できた」という達成感が味わ えるように、内容を工夫している。 ・子どもが納得感をもって行動できるように、その子の分かる 方法で伝えるようにしている。	・子どもたちの発達段階に合わせた療育を提供していくため に、スタッフのスキルアップ、自己研鑽を重ねていく。 ・子どもたちの特性と環境が合っていて、困り感や不安が軽 減したかなど、支援の振り返りを充実していく。
3	・土曜日や長期休みには、様々な体験ができるようにお出かけ やクッキングなどの行事を実施していること。	・子どもたちにとっては楽しい、やってみたいと思える活動を 子どもたちが主体的に取り組む中で、学びや成長につながるよ うに活動プログラムやスケジュールを考えている。	・5領域(健康・生活、運動・感覚、言語・コミュニケーション、 認知・行動、人間関係・社会性)を意識した活動プログ ラムをさらに多様化させ、子どもたちの「好き」や「興味関 心」を広げられるように様々な活動を検討していく。 ・安全に配慮しながら、様々な経験ができるよう活動内容を 考えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の取り組みや、非常時の対応や安全確保、各種マニユ アルは整えているが、その取り組みについて、保護者様へ情報が 伝わりにくい状況になっている。	・各種マニュアル等については契約時に説明しており、発信の 頻度が少ない。 連絡帳でその日の様子を文章でお伝えしているが、文章だけ では伝わりにくい部分がある。写真撮影にばかり気を取られ質 の低下に繋がってはいけないこと、個人情報の観点から、日々 の様子を写真で共有があまりできていない。 ・SNSで活動の様子を発信しているが、あまり周知されてい ない。	・保護者様に周知していただくためにお便りなど、保護者様 が確認しやすい手段での情報提供を行う。
2	保護者様同士の交流や学びの機会が十分に確保されていない。	・コロナ禍以降、大勢が集まる行事の開催が難しく、保護者同 士が悩みや情報を共有する「横のつながり」を作る支援が十分 にできていない。	・保護者様のニーズを伺い、必要に応じて無理のない範囲で 保護者様同士が繋がれるような機会を検討していく。
3			